

小杉先生からは「当初、仏典を歌に?との戸惑いも大きかったが“般若心経”を身近なものにとの寺西女史の想いに応えなければと。多くの人々がこの曲そして演奏を通じて新たな気づきが増えてその人のこれからの歩みが進んでいければ。」とのメッセージを頂いております。

H. ベルリオーズ：歌曲集《夏の夜》 作品7より4曲 「ヴィラネル」「バラの幽霊」「君なくて」「見知らぬ鳥」

《夏の夜》は、フランスの作曲家エクトル・ベルリオーズによって1841年から翌年にかけて作曲された歌曲集で、ロマン派の音楽における重要な作品の一つです。ベルリオーズはロマン派の音楽家として知られ、情熱的で詩的な作品を多数残しています。彼はこの曲を当初、ピアノ伴奏の歌曲集として作曲していましたが、その後オーケストラ伴奏用に編曲し、1856年頃にオーケストラ伴奏版を完成させました。

《夏の夜》の6つの詩は、テオフィル・ゴーティエ(Pierre Jules Théophile Gautier)の『死者の喜劇』(La Comédie de la Mort)に基づいています。「夏の夜」を語る上で欠かせないのは、ベルリオーズとゴーティエの関係性です。ゴーティエは19世紀フランスの著名な詩人で、彼の作品はその表現の美しさと豊かな感性で広く知られています。ゴーティエの詩に深く感銘を受けたベルリオーズは、その世界観を音楽で表現しようと試みました。二人の芸術家の協力により《夏の夜》は、音楽と詩の融合が見事に成し遂げられた作品となっています。この歌曲集は、全体を通して愛と失恋、喜びと悲しみ、希望と絶望といった多様な感情や、自然の美しさといったテーマを繊細かつ情感豊かに表現しています。

本日お届けする4曲も、それぞれが独自のテーマと物語を持ち、リズムやメロディーも様々です。春の訪れと若い恋人たちの喜びを歌う「ヴィラネル」、幽霊になったバラが夢に現れて語りかけるという幻想的な「バラの幽霊」、愛する人の不在を嘆き、失われた愛への深い想いを表現する「君なくて」、未知の鳥への旅立ちに憧れ、冒険心と希望に満ちた「見知らぬ鳥」。19世紀の芸術家たちが描いた夏の夜の情景豊かな響きを、皆様にお届けできましたら幸いです。

黄原 直美

A. ドヴォルザーク：ピアノ三重奏曲第4番 ホ短調 作品90「ドゥムキー」

アントニン・レオポルト・ドヴォルザークは後期ロマン派に位置するチェコの代表的作曲家。チェコ語の発音により近い「ドヴォルジャーク」「ドヴォジャーク」とも表記されます。

現在のプラハの北30キロほどの小さな町で肉屋・宿屋を営む家に生まれました。父や祖父が楽器を得意としていたのを受け継ぎ、小さなころからヴァイオリンそしてヴィオラを得意としていましたが、両親の反対もあり苦学して音楽の道に進みました。彼の才能に着目した音楽教師たちの勧めでプラハで学び、ブラームスに才能を見出され、『スラヴ舞曲集』で一躍人気作曲家となりました。

彼の名曲としては、交響曲第9番「新世界より」が最も有名ですが、「ユーモレスク」「チェロ協奏曲」など、その穏やかで温かな旋律は聴き手の心を和ませます。また、無類の鉄道好きとして知られますが、彼の音楽から感じる力強さはそれによるものかもしれません。

故郷ボヘミアの「スラヴ的」旋律が大ヒットとなり円熟期を迎えた頃、いくら活躍してもチェコを動こうとしなかった彼ですが、50歳で新天地、米国へ行く事を決断します。その年に完成した曲が、ピアノ三重奏曲第4番「ドゥムキー」です。それまでの伝統的な「ドイツ的」とも言える4楽章スタイルに対して、全6楽章で構成。ソナタ形式がどこにも存在しない自由な形式で書かれ、安易な構図ではない作品となっています。タイトルの「ドゥムキー」は「ドゥムカ」(ウクライナ起源の吟遊詩人が詠う叙事詩)の複数形。またスラヴ語で「思い」や「瞑想」といった意味ですが、「スラヴ」を売りにしようという営業的打算ではなく、チェコの自然美や民族性・憂愁を旋律にした……こよなく祖国を愛した彼の想いを見ることができます。

第1楽章 レント・マエストーソ

スラヴの哀愁。そう、これがドヴォルザークの愛する祖国チェコ

第2楽章 ポコ・アダージョ

大地の美しさや民族性がたっぷりの緩徐楽章

第3楽章 アンダンテ

憂いを帯びたピアノのメロディから始まりチェロが歌い、ときにはヴァイオリンも歌い、いかにも男性らしい哀愁が漂います。

第4楽章 アンダンテ・モデラート

感傷的なメロディがチェロで歌われて始まり、表情を変化させていきます。

第5楽章 アレグロ

舞曲風のリズムを取りながら明るい基調と、どこことなく憂いも帯びた色彩豊かな楽章

第6楽章 レント・マエストーソ

冒頭は悲しげにスラヴの民族的な雰囲気が濃厚にあらわれながらテンポが上がり、途中穏やかに。最後はピアノ、ヴァイオリン、チェロが対等にスラヴの歌を歌い幕を閉じてゆきます。